

キャリアデザイン学部

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2022年度大学評価結果総評】（参考）</b></p> <p>キャリアデザイン学部では、全体としてみると、全員の体勢で非常によく学部運営がなされているとの印象が得られる。</p> <p>とくにFDミーティングや就職委員会、就職カフェ、キャリアアドバイザーなど、学部独自の委員会を多く設置し、学部運営だけでなく、学修支援や就職支援、成績不良者や留級、留年者に対してもきめ細かな対応をしている点が注目される。COVID19が与えた学生への影響については、オンライン担当委員を設け、学生アンケートやモニタリング調査を実施するなど、臨機応変に対応している様子が見える。こうした対応は随所に見られる。</p> <p>学部の特徴の一つでもある体験型科目では、学生には学外での社会体験、とくに地方の農山村や被災地での社会体験の機会を提供し、そこで得られた経験をもとに教員は学部の理念や目的を見直す契機にしている点は、教員と学生が一体となって学ぶ姿を呈していて、非常に好感が持てる。</p> <p>しかし、自己点検・評価シートのあちこちで触れられていることは、緻密な運営をしつつも小規模学部であるがゆえの教員への負担増に苦しんでいる様子である。この先の持続可能性を考えると早急に対応策を検討する必要があると考えられる。</p>
<p><b>【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b></p> <p>2022年度の総評において評価していただいた、年三回のFDミーティング開催や学部独自の就活イベント、キャリアアドバイザー制度の活用といった点については、引き続き学部の全教員による参加もしくは主担当の委員会によるイニシアチブのもとで、コンスタントに継続されている。比較的小さな規模の学部ということもあり、オンラインから対面への授業形態の移行についても、兼任教員を含め総意が比較的得られやすく、2022年度中に多くの授業においてコロナ前のスタイルに戻すことができた。</p> <p>その一方で、学外での実習を含む体験型科目においては、受け入れ先の状況の問題もあり、現地での実習が叶わなかったコースも少なくない。これに関しては、「教室を離れた体験」を通じた学びの意義や目的を改めて学部内で議論し、オンラインによる体験学習の基準を明確にするなどの対策を講じた。</p> <p>小規模学部ゆえの教員一人ひとりの負担の重さという恒常的な課題については、引き続き学部各種委員会の業務内容の精査やその結果としての委員数の見直し、入試担当業務の整理・合理化、学部内向けの質保証・自己点検シートの記述方法の簡易化など、できることから少しずつさらなる効率化を図っているところである。</p>

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

<p>1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を記入してください。</p> <p>学士（キャリアデザイン）</p> <p>1. キャリアデザインが求められる社会的背景、およびキャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について幅広く理解している。</p> <p>2. 特定のアプローチについては、専門的知識を有し、それを活用できる。</p> <p>3. キャリアデザインに関わる社会現象や政策・施策等について、自ら研究を深め、一定の成果を残すことができる。</p>	
<p>1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。</p>	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学ホームページ：キャリアデザイン学部 ディプロマ・ポリシー (<a href="https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/diploma/">https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/diploma/</a>)</li> <li>新入生ガイダンス資料（2022年4月1日実施、ppt資料）</li> </ul>	
1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。	
<p>本学部では、学位授与方針を踏まえ、以下の通り教育課程を編成・実施する。</p> <p>1. 教育課程          教養教育科目と専門教育科目から構成する。教養教育科目（市ヶ谷基礎（ILAC）科目）においては、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。専門教育科目は少人数演習型授業と講義科目、体験型授業によって構成し、系統的な履修を促す。</p> <p>2. 初年次教育          教養教育科目を幅広く履修することに加え、アカデミック・スキルの習得を目的としつつ学部の専門教育科目への関心を高めるねらいも併せもつ「基礎ゼミ」を1年次春学期の必修科目に位置づけ、少人数演習型授業として実施する。また、1年次から専門教育科目のうち基幹科目の履修を促す。</p> <p>3. 専門教育科目          (1) 少人数演習型授業          「基礎ゼミ」の履修を前提に、調査研究法の基礎を習得する科目の履修につなげる。2年次秋学期から4年次にかけては、専門的な学びを深めることを目的とした演習（ゼミ）を設け、卒業論文の執筆を通じた研究成果の取りまとめを促す。</p> <p>(2) 講義科目          「基幹」科目の幅広い履修を踏まえて「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域のいずれかを選択し、「展開」科目において専門的な学びを深めるよう促す。これらと「関連」科目をあわせた系統的な履修を促す。</p> <p>(3) 体験型授業          企業・学校・コミュニティなどにおける他者との関わりを通じた体験的な学びとスキルの習得を目的とした体験型授業を必修科目に位置づけ、知識と体験の統合を促す。</p>	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学ホームページ：キャリアデザイン学部 カリキュラム・ポリシー (<a href="https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/curriculum/">https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/curriculum/</a>)</li> <li>法政大学ホームページ：キャリアデザイン学部 カリキュラム・マップ (<a href="https://www.hosei.ac.jp/application/files/9415/7163/3424/curriculum_map2.pdf">https://www.hosei.ac.jp/application/files/9415/7163/3424/curriculum_map2.pdf</a>)</li> <li>法政大学ホームページ：キャリアデザイン学部 カリキュラム・ツリー (<a href="https://www.hosei.ac.jp/application/files/9815/7163/3423/curriculum_tree.pdf">https://www.hosei.ac.jp/application/files/9815/7163/3423/curriculum_tree.pdf</a>)</li> </ul>	
1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
1.3①「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

っていますか。	
<b>1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</b>	
1.4①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザイン学部履修の手引き (<a href="https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjoyODMOMDEsImNhdGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&amp;pNo=12">https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjoyODMOMDEsImNhdGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&amp;pNo=12</a>)</li> <li>・キャリアデザイン学部新入生 Web ガイダンス動画 (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=H1VLLjekjYg">https://www.youtube.com/watch?v=H1VLLjekjYg</a>)</li> <li>・履修相談会の開催 (<a href="https://hosei-keiji.jp/cd/class/20230327_01">https://hosei-keiji.jp/cd/class/20230327_01</a>)</li> <li>・ゼミ履修の手引き（一部動画を含む）(<a href="https://hosei-keiji.jp/cd/class/230426_01">https://hosei-keiji.jp/cd/class/230426_01</a>)</li> <li>・「2023年度シラバスの記載について」第12回教授会資料（2022年12月2日実施：資料A01）</li> <li>・Webシラバス (<a href="https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php">https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php</a>)</li> <li>・「成績不振者面談の実施方法について」2022年度第16回教授会資料（2023年3月17日実施：資料06）</li> </ul>	
<b>1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</b>	
1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザイン学部履修の手引き (<a href="https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjoyODMOMDEsImNhdGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&amp;pNo=12">https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjoyODMOMDEsImNhdGVnb3J5TnVtIjo20DEzfQ==&amp;pNo=12</a>)</li> <li>・キャリアデザイン学部新入生 Web ガイダンス動画 (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=H1VLLjekjYg">https://www.youtube.com/watch?v=H1VLLjekjYg</a>)</li> <li>・ゼミ履修の手引き（一部動画を含む）(<a href="https://hosei-keiji.jp/cd/class/230426_01">https://hosei-keiji.jp/cd/class/230426_01</a>)</li> <li>・「2023年度シラバスの記載について」第12回教授会資料（2022年12月2日実施：資料A01）</li> <li>・Webシラバス (<a href="https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php">https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php</a>)</li> <li>・「体験型科目FD資料」第二回FDミーティング資料（2022年9月23日実施：資料F03）</li> <li>・授業改善アンケート結果（各教員および執行部で確認）</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

※「2021年度秋学期『学生による 授業改善アンケート』の実施結果について」第2回教授会にて報告・活用の要請（4月21日学部グループウェア〔サイボウズ〕にて配信）

※「2021年度春学期『学生による 授業改善アンケート』の実施結果について」第10回教授会にて報告・活用の要請（10月26日学部グループウェア〔サイボウズ〕にて配信）

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。

キャリアデザイン学部では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つのポリシーに照らして、下記の通り検証を行う。

1. 基礎ゼミをはじめとする教養教育科目での取組と成果を通じて、能動的な学習態度や大学生活の基礎となる知識や外国語能力、情報リテラシー、アカデミック・スキルが身についているか、プレゼンテーション、レポート執筆、フィールドワークおよびディスカッションを通して把握する。
2. キャリアデザイン学入門をはじめとする入門系科目の取組を通じて、その後の学部の専門科目への導入となる基礎的な知識や自主的な学修態度が身についているかを把握する。
3. 体験型選択必修科目における事前・事後指導およびフィールドワークでの取組と成果報告書作成を通じて、主体的、自主的、能動的な学修態度や、学部課程で求める思考力、判断力、表現力が身についているかを把握する。
4. 授業やゼミ等における学習・研究活動の発表、質的・量的調査、課題解決型フィールドワーク、論文執筆等の教育ならびに研究成果の実績・評価等を用いて、学部が求める専門知識・能力が身についているかを把握する。
5. 卒業研究および単位修得状況、成績評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーで求める必要な能力が身についているかを把握する。

1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい

【根拠資料】

- ・法政大学ホームページ：キャリアデザイン学部 アセスメント・ポリシー (<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/assessment/>)
- ・「学習成果を把握（測定）する方法（キャリアデザイン学部）」 ([https://www.hosei.ac.jp/application/files/6115/8563/7327/12\\_.pdf](https://www.hosei.ac.jp/application/files/6115/8563/7327/12_.pdf))
- ・2022年度卒業論文要旨集（PDF版 ※学部掲示板にて公開）
- ・2022年度学生研究発表会発表要旨集（PDF版 ※同）
- ・2022年度キャリア体験学習（国際・台湾）報告書（冊子体）
- ・2022年度キャリア体験学習（国際・ベトナム）報告書（冊子体）
- ・2022年度キャリアサポート実習成果報告書（冊子体）
- ・2022年度キャリア体験学習報告書（冊子体 ※学部掲示板でも公開）
- ・2022年度キャリア体験学習Cコース成果発表会（2022年12月16日実施）
- ・2022年度地域学習支援ポスター発表（2022年12月11-16日実施：於メディアラウンジ）
- ・授業改善アンケート結果（各教員および執行部で確認）
- ※「2021年度秋学期『学生による 授業改善アンケート』の実施結果について」第2

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>回教授会にて報告・活用の要請（4月21日学部グループウェア〔サイボウズ〕にて配信）</p> <p>※「2021年度春学期『学生による 授業改善アンケート』の実施結果について」第10回教授会にて報告・活用の要請（10月26日学部グループウェア〔サイボウズ〕にて配信）</p> <p>・キャリアセンター卒業生進路先データ（学部グループウェア〔サイボウズ〕で共有）</p>
--

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい

【根拠資料】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業改善アンケート結果（各教員および執行部で確認） <ul style="list-style-type: none"> <li>※「2021年度秋学期『学生による 授業改善アンケート』の実施結果について」第2回教授会にて報告・活用の要請（4月21日学部グループウェア〔サイボウズ〕にて配信）</li> <li>※「2021年度春学期『学生による 授業改善アンケート』の実施結果について」第10回教授会にて報告・活用の要請（10月26日学部グループウェア〔サイボウズ〕にて配信）</li> </ul> </li> <li>・ 大学評価室による学生調査結果（学部グループウェア〔サイボウズ〕で共有）</li> <li>・ 2022年度第一回FDミーティング資料（2022年4月8日実施：資料F01-21）および議事録</li> <li>・ 2022年度第二回FDミーティング資料（2022年9月23日実施：資料F01-19）および議事録</li> <li>・ 2022年度第三回FDミーティング資料（2023年2月27日実施：資料F01-F03）および議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>※とくに資料F01「キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート」</li> </ul> </li> <li>・ 「2022年度学生モニター制度実施報告」第13回教授会資料（2022年12月16日実施：資料B10）</li> <li>・ 2022年度キャリアデザイン学部中期目標・年度目標達成報告書</li> </ul>
--

(2) 特色・課題

<p>以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。</p> <p>【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。</p>
<p>【教育課程・教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証</li> <li>・ 学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・ 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）</li> <li>・ 幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成</li> <li>・ 初年次教育・高大接続への配慮</li> <li>・ 学生の国際性を涵養するための教育内容の提供</li> <li>・ 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施</li> </ul>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

特色	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）
<p>学際的な学部である本学部においては、学生が多様な科目を「つまみ食い」して卒業することを避けるために、キャリアデザインが展開される場を「学ぶこと」（発達・教育キャリア）、「働くこと」（ビジネスキャリア）、「暮らすこと」（ライフキャリア）の三つのフェーズから捉え、学生がそれぞれの領域を軸として専門性を深めていけるようカリキュラムを設計している。学生はまず、1年次に「キャリアデザイン学入門」（必修）で全体の基礎を学びつつ、それぞれの領域の入門科目（選択必修）を通して自身の興味・関心の所在を絞り込んでいき、2年次以降、自らが選択した領域の専門科目の履修と、2年次秋から始まる専門演習（ゼミ）を通して、さらに学びの専門性を深めていく。その集大成として、4年次の卒業論文執筆によって、アカデミックな学びの成果が可視化できるよう全体の順次性を構成している。併せて、キャリアデザイン研究に必要な調査スキルの習得のために、「キャリア研究調査法入門」（1年次必修）➡「キャリア研究調査法（質／量）」（2年次選択必修）➡「キャリア研究調査法実習」（選択）という階梯性にそった科目を配置することにより、学生が確実に調査能力を身につけることができるよう配慮している。</p>	
<p><b>【教育方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）</li> <li>・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）</li> </ul>	
特色	教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）
<p>本学部の目標は、自己のキャリアを主体的創造的にデザインしていくことができる力を涵養すると同時に、他者のキャリア形成をサポートできるスキルを身につけることにある。そのため、教室での学びを進める一方で、広く社会の中で人びとのキャリアが展開される多様な現場（国内外の企業、学校、NPO、地域の文化施設、等）において、実際の体験を通じて学びを深めていくことを重視している。具体的には2年次に、事前指導➡実習➡事後指導からなる体験型科目群（選択必修：「キャリア体験学習」〔国内／国際〕「キャリアサポート実習」「地域学習支援」、等）を置き、まず事前指導（春学期）では、実習先についての理解を深めたりコミュニケーションスキルを高めるなどの準備を整え、実習後は事後指導（秋学期）において、自己の体験を深く掘り下げ、キャリアに関する考察をさらに推し進めていくことを目指している。実習のコース毎に各クラス20名程度の少人数で授業を展開し、実習先に関わるテーマを題材としてPBLやアクティブラーニングの手法を頻繁に活用しながら、学生が能動的に学びに参加できるよう配慮している。</p>	
<p><b>【学習成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。</li> <li>・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み</li> <li>・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</li> </ul>	
特色	成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用
<p>本学部では、「基礎ゼミ」（1年次必修、全16クラス）をはじめ、「キャリア研究調査法（質／量）」（2年次選択必修、各9クラス）、体験型科目群（2年次選択必修、全15クラス）など、同一の科目を複数コマ展開しているものが少なくない。当然ながら専任の教員のみで対応することはできず、相当の数の兼任教員にも担当していただいている。そのため、授業の内容や進め方、とりわけ成績評価において、同一科目内で不均衡が生じないように、それぞれの科目の責任者として専任教員を配置し、兼任教員とも密に連</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>絡を取りながら授業を進めている。また、年3回（年度はじめ、秋学期開始時、年度末）実施されるFDミーティングにおいて、それぞれの科目の担当教員から報告がなされ、課題等がある場合は全専任教員を交えて議論・検討し、より円滑な授業運営と公正な単位認定の実現につなげている。一方、ゼミやその成果としての卒業論文については、教務委員会が中心となって履修や単位取得の状況を把握し、教授会等の機会に全教員で共有している。また出口保証の一環として、毎年1月末に開催される「学生研究発表会」に合わせて、卒業論文の要旨集を作成・公開（学部内）している。</p>
<p>その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。</p>
<p>特色</p>
<p>特になし</p>
<p>課題</p>
<p>本学部では十年ほど前に、少人数クラス（約50名⇒約25名）を実現することと引き換えに、ILACの必修英語の科目数を半減させた。他方、選択英語に関しては科目数を減らすことなく、授業内容の精査に努めてきたが、学生の関心は学部の専門科目の履修の方に傾きがちで、十分な受講者数を獲得できていない状況にある。グローバル化のいっそうの進展に鑑みて、学生が1年次の必修英語を履修し終えたのちも継続して英語の学習を深めていくことを促すべく、現在、執行部と教務委員会を中心に履修制度の改革の検討に着手したところである。</p>

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

<p>2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。</p>	
<p>本学部の教育目標を理解した者であって、下記の資質・能力を備えた学生を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校までに履修する科目について、入学時に十分な基礎的知識を身につけている</li> <li>・現実の社会のあり方とその中での人々のキャリアに関心をもっており、学問的に考察を深める意欲をもっている</li> <li>・多様な他者の価値観を尊重したうえで、多様な人々と主体的に関わる意欲をもっている</li> </ul> <p>多様な学生が関わりあう中で学びあうことを重視する観点から、下記の通り、様々な入試経路を通じて多様な学生を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜（A方式、T日程および大学入学共通テスト利用入試）：十分な基礎的知識にもとづく思考力・判断力・表現力を備えている</li> <li>・学校推薦型選抜（指定校推薦、付属校推薦、スポーツ推薦入試）：十分な基礎的知識をもち、本学部における学びへの高い意欲をもっている</li> <li>・総合型選抜（キャリア体験自己推薦入試、グローバル体験公募推薦入試、商業学科等対象公募推薦入試、国際バカロレア利用自己推薦入試）：十分な基礎的知識をもつとともに、多様な経験を積んでおり、自らの関心や学びの展望についての的確に表現することができる</li> </ul>	
<p>2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。</p>	<p>はい</p>
<p>2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。</p>	<p>はい</p>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p><b>【根拠資料】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学ホームページ：キャリアデザイン学部 アドミッション・ポリシー (<a href="https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/admission/">https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/policy/admission/</a>)</li> <li>・法政大学 入試要項 (<a href="https://nyushi.hosei.ac.jp/yoko">https://nyushi.hosei.ac.jp/yoko</a>)</li> </ul>
--

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

<p>2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。</p> <p>本学部では、多様な背景をもつ学生が互いに関わりあいながら学びを進めていくことで、人のキャリアに関する理解を深めていくことを重視している。そのため、一般選抜に加え、多様な総合型選抜の機会（キャリア体験自己推薦入試、グローバル体験公募推薦入試、商業学科等対象公募推薦入試、国際バカロレア利用自己推薦入試、等）を設けている。これらの入学者選抜の制度については、入試担当の執行部主任のイニシアチブのもとで、出願基準等の適切性に関して絶えず確認を行い、必要に応じて適宜見直しを図っている。なかでも、特別入試の大きな部分を占める指定校推薦入試については、在校生のGPAの調査等をもとに毎年入念なチェックを行い、その結果を指定校選定に反映させている。加えて2022年からは、継続的なデータの蓄積を通してより適切かつ公正な選抜が行えるように、指定校選定のプロセスを明文化して学部で共有している。キャリアデザインという、他に類を見ない学部の特殊性を受験生が十分に理解できるように、学部パンフレットに加えて、ゼミ活動をはじめ学部の学びを紹介する動画を多数ホームページで公開することによって、より関心の高い学生の出願を促すよう工夫している。また2023年度入試からは、合格者に対してオンラインによる相談会を開催し、学部での学びに対する不安や疑問を解消するとともに、意欲をもって入学できるような仕組みを設けている。</p>
--

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

<p>2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。</p>	<p>はい</p>
--	-----------

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

<p>2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。</p>
<p> </p>

表 1

学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

本学部のディプロマ・ポリシーにおいては、キャリアデザインが必要とされる社会的背景を理解したうえで、キャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について幅広く習得することが求められている。そもそも「キャリアデザイン」とは、人が生涯にわたって取り組むべきものであり、その範囲は極めて広く多様である。そこで本学部では、人のキャリアが形成される場として、「発達・教育キャリア」（学ぶ）、「ビジネスキャリア」（働く）、「ライフキャリア」（生活する）の3つの領域を設定し、それぞれの領域を通してより専門的な観点からキャリアデザインにアプローチできるようにカリキュラムを構成している。したがって本学部の教員は、キャリアデザインという考え方についての総合的な理解を土台として、それぞれの領域において専門的なレベルでの教育研究を推し進めていくことが求められている。より具体的には、「発達・教育キャリア」では教育学を中心とする学問領域、「ビジネスキャリア」では経済・経営学を中心とする学問領域、「ライフキャリア」では家族や地域コミュニティ、文化などに関する学問領域における専門性をそなえた教員が配置されている。各領域を担当する教員の数はほぼ等しく（発達・教育キャリア 10名/ビジネスキャリア 9名/ライフキャリア 8名）、学生が過不足なく学際的・横断的な学びを進めていくことができるような編成となっている。

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
<p>本学部においては、「キャリアデザイン」という他に類を見ない先進的・学際的な分野を対象としているため、また、教職に加えてさまざまな資格課程を主管する任を負っていることもあり、教員組織の編成は複雑で、全体的な輪郭をつかむのはいささか難しい。それゆえ学生が、多様性という本学部の特質を理解しつつ、その一方で自身が選択した領域において系統的な学びを積み重ねていけるように、要となる科目には専任教員を配置している。まず、導入科目として1年次に履修する各種入門科目（「キャリアデザイン学入門」等）はおおむね専任教員が担当し、2年次以降の専門科目においても、カリキュラムを構成する3つの領域（「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」）のそれぞれにおける中心科目は専任教員が担当している。加えて本学部では、学びの両輪とするべく、教室での授業と並んで学外での体験学習を非常に重視していることから、現在15クラス設置している体験型科目（通年：事前指導➡実習➡事後学習）のほとんどにおいて、平均20名程度からなる少人数クラスを専任教員が担当している。また、2年次秋学期以降に始まる専門演習（ゼミ）については、全専任教員が担当し、それぞれの専門性を生かして活発なゼミ活動を展開している。学部創設から20年近く経ち、現在、専任教員の年齢層はかなり高くなってきており、50-60歳台が大きな部分を占めている。それゆえ、中長期的な人事構想について検討するために、学部内に常設人事委員会を置くとともに、教員採用の際には、全体のバランスを考慮して募集条件を設定している。なお専任教員の男女比については、2：1と男性教員が多くなっているものの、一般の組織に比してその差はかなり小さいものとなっている。</p>	

3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
--	----

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<p>○教授会内規</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザイン学部教授・准教授への昇格に関する基準（教授会内規 10）</li> <li>・専任教員の任用に関する基準（同 11）</li> <li>・専任教員の定年延長に関する基準（同 12）</li> <li>・専任教員の定年延長の更新に関する基準（同 13）</li> <li>・任期付教員の任用に関する基準（同 15）</li> <li>・非常勤教員の任用に関する基準（同 16）</li> </ul>	

3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①学部（学科）内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度第一回FDミーティング（2022年4月8日実施） テーマ：2022年度に向けて（学部長）、主要科目担当者からの報告〔現状分析と課題、今年度の対応策について〕（「キャリアデザイン学入門」「基礎ゼミ」「キャリア研究調査法」、等）、学部内委員会からの報告〔現状分析と課題、今年度の対応策について〕（質保証委員会、教務委員会、広報委員会、等）、特別テーマ「カリキュラム改革の進め方について」、参加者27名（教員25名、キャリアアドバイザー1名、事務主任1名）</li> <li>・2022年度第二回FDミーティング（2022年9月23日実施） テーマ：2022年度の中間報告（学部長）、主要科目担当者からの中間報告（「キャリアデザイン学入門」「基礎ゼミ」「キャリア研究調査法」、等）、学部内委員会からの中間報告（質保証委員会、教務委員会、広報委員会、等）、特別テーマ「カリキュラム改革」、参加者26名（教員25名、事務主任1名）</li> <li>・2022年度第三回FDミーティング（2023年2月27日実施） テーマ：質保証委員会からの所見（1. 内部質保証・自己点検チェックシートの報告と検討、2. 中期目標・年度目標達成状況報告書について）、各委員会からの報告、特別テーマ「体験型科目について」、参加者26名（教員25名、事務主任1名）</li> <li>・2022年度学生モニター制度実施の報告（第13回教授会：2022年12月16日実施） テーマ：標記報告（質保証委員会）とそれに関する議論、参加者26名（教員25名、事務主任1名）</li> </ul>	
3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部シンポジウム：テーマ「持続可能なキャリアのデザイン」2022年11月11日開催、参加人数25名</li> <li>・22年度教員による授業相互参観（延べ85科目を公開、うち35科目で実施）</li> <li>・法政大学キャリアデザイン学会プロジェクト研究：テーマ「ライフキャリアに関する学際的研究」（研究会「米国在住ソフトウェア・エンジニアとしてのライフキャリア」2023年2月10日開催）</li> <li>・法政大学キャリアデザイン学会プロジェクト研究：テーマ「進路多様校における学力</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

向上とキャリア形成に関する複数校間比較」(報告会「進路多様校の生徒のキャリア発達に関する二校間比較」2023年2月17日実施)

#### 4 学生支援

##### (1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。

##### 【学生支援】

- ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
- ・学生の自主的な学習を促進するための支援
- ・学習の継続に困難を抱える学生(留年者、退学希望者等)への対応
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・外国人留学生の修学支援
- ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮(相談対応、授業計画の視聴機会の確保等)

**特色** 学生の自主的な学習を促進するための支援

本学部では、授業科目を越えて学生が自主的な学びを推し進めることができるように、「学生活動サポート助成」という制度を設けている。これは学生が主体となって、学外の個人や団体等と協働・連携しつつ、広く社会に貢献する活動を促すためのもので、毎年10～12チームほど(各チーム10～15名程度)の学生グループから応募があり、担当委員会(学生サポート委員会)による審査を経たのち、活動に要する費用の8割ほどの助成を行っている。学生チームは、小中学校でのキャリア支援、地域のまちおこし活動、企業や自治体との共同によるイベント開催、多文化共生のための社会活動などを自主的に企画・実施することを通して、教室で学んだキャリアデザインを実践的・応用的に理解・体得することが期待されている。これらの活動の成果報告については、毎年年度末に、法政大学キャリアデザイン学会誌『生涯学習とキャリアデザイン』において公開されている。

その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

##### 特色

本学部では、学生自らがチャレンジする学習活動のうち、本学部の教育目的に合致し、特に意義があると認められる活動を支援するために、「キャリアアップ奨励金」という独自の給付金制度を設けている。より具体的には、本学部が推奨する教育・研修機関等の講座・コース・プログラム等を修了した場合に、その受講料等の全部または一部を補助するものと、特定の資格を取得した場合に、その受験料等の全部または一部を補助するものの2種からなっている。給付対象の判断や給付金の審査等については学部の就職委員会が担当し、教授会の合意を得たうえで実施している。2022年度からは、「ビジネス・会社系」「心理・カウンセリング系」「社会人ベーシックスキル講座」の3つの領域に関して、学部としてどのような講座や資格が望ましいかを整理・明示し、学生がより積極的に受講・受験できるような仕組みを整えている。

##### 課題

本学部には外国人留学生が一定数在籍しており、学部の国際交流委員会が彼らの学修や就活のサポートに当たっているが、在日年数や日本語レベルのバラツキが大きく、なかなか実情を正確に把握できないでいる。成績不振等の問題については執行部がチェックしているが、特に留学生を対象とした調査を行っているわけではない。今後、学部として組織的な支援の体制を整えていくことが急がれるところである。

#### 5 教育研究等環境

##### (1) 点検・評価項目における現状

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部長会議報告「2022年度研究倫理教育の実施計画について」2022年度第1回教授会資料（資料A8）</li> <li>・同報告「文部科学省からの指摘に伴う『法政大学研究倫理規程』の一部改正について」2022年度第12回教授会資料（資料A5）</li> <li>・同報告「学部生に対する研究倫理教育の実施について」2022年度第15回教授会資料（資料A1）</li> <li>・基礎ゼミ第3回シラバス「レポートの書き方（1）：捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する」</li> <li>・キャリア研究調査法入門第14回シラバス「成果の公表の仕方、調査倫理も含めた質的調査のまとめ」</li> <li>・新入生ガイダンス資料（2023年4月1日開催：ppt資料）</li> <li>・法政大学大学院キャリアデザイン学研究科研究倫理委員会規程 ※必要に応じて学部にも適用</li> </ul>	

III 2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	現行の教育課程を、その効果を随時検証しつつ遂行するとともに、新カリキュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。	
年度目標	①科目数のスリム化を視野に入れつつ、新カリキュラムの具体的な設計に向けて検討を重ねる。	
達成指標	2021年度のワーキンググループによる検討結果を受けて、教務担当の執行部主任を中心に、項目ごと（調査法科目、体験型科目、等）により詳細なカリキュラム内容の検討を進める。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	基本的に対面の教授会開催時に集中的に議論するとともに、ゼミのあり方についても教員にアンケートを実施し、キャリアスタディーズ基礎科目群（リテラシーA/B/C および共通科目）、専門科目、体験型科目、調査法科目、ゼミの枠組み等について、一定の合意を得た。
	改善策	新カリキュラムの大枠についてはほぼ決定したが、個々のグループのなかでどのような科目を残す、あるいは変更するかといった細部の議論はこれから積み上げていく。また領域ごとおよび全体として、どの程度のスリム化が可能かについても今後具体的に検討していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	多様な領域の科目群を抱える学際学部という性質を踏まえて、複数の検討チームを構成してブレインストーミングから議論を積み上げてきている。課題としては、多様な意見の聴取により扱う論点が増えており、改革の着地点が曖昧化するおそれがある。
改善のための提言	数年後をめどに新カリキュラムに移行することを前提とすると、全体を抜本的に変革するよりは、今年度の検討をもとに重点課題を選択し、まずはその部分の改革に注力し、他の部分については中長期的課題として取り組むことが有効であると考えられる。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	現行の教育課程を、その効果を随時検証しつつ遂行するとともに、新カリ	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	キュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。	
年度目標	②2022 年度新入生から適用される体験型科目（選択必修）の改訂版が円滑に開始されるよう留意する。	
達成指標	実質的には次年度から履修が始まる体験型プログラムの改訂版について、学生への周知・理解を図る。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	年末に CA によるプレガイダンスイベントを実施し、多くの参加者があった。また、3 月に対面で履修ガイダンスを実施する。
	改善策	次年度以降も計画的にガイダンスを実施していくこととする。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	計画通りにガイダンスを実施し、特に問題も発生していないため、的確に実行できたものと評価できる。
	改善のための提言	次年度事項も今年度と同様の取り組みを続けていくのが望ましい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	現行の教育課程を、その効果を随時検証しつつ遂行するとともに、新カリキュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。	
年度目標	③コマ数を半減したにも関わらず受講者数が十分に伸びていない「情報処理演習」（ILAC 科目）について、改善の方策を探る。	
達成指標	受講しやすい曜日・時限の開講を工夫するとともに、授業内容の精査・改善に着手する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	一部の時間帯で改善が見られたものの、多くのコマで受講者数が少ない状況が続いている。学生による履修相談会での積極的な働きかけを期待したが、教務委員会と CA、CA と学生とのコミュニケーション不足により、働きかけが十分になされなかった。 また、受講しやすい曜日・時限と学部の必修科目・展開科目と重なっているという問題は改善されていない。
	改善策	学生による履修相談会で積極的に履修を促すよう、再度、働きかける予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	数年間にわたり取り組んでいる課題であるが、履修者数の増加という目標達成状況は不十分である。ガイダンスの充実化は十分に行われているので、異なるアプローチでの取り組みが求められる。
	改善のための提言	今後は、情報処理のスキルに弱みを持つ学生に対し、他の授業（ゼミなど）内で補習的教育はせずに情報処理科目の履修を勧める等、学生が自発的に履修する流れを日常の中で生み出すことが求められる。これによって科目間の内容分担の適正化も実現される。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	現行の教育課程を、その効果を随時検証しつつ遂行するとともに、新カリキュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。	
年度目標	④近年全学で推進されている学部横断型の各種プログラムへの積極的な参加を促す。	
達成指標	履修ガイダンス等の機会や学部掲示板等での告知を通して、学生への広報をより積極的に行う。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部長会議での全学の履修者数の報告を受けて、教授会等で学生へのアピールを行うよう教員に促すとともに、受講者数の向上のために履修ガイダンス等の機会を活用してプログラムの紹介を行った。
	改善策	学部横断型のプログラムの多くは自由科目の枠内に設定されており、学生が履修する余地があまりないという課題があるが、引き続き改善の方策を探っていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部横断型プログラムは本学部にとって与件であり、現行の全学および学部の制度下において、履修者数が多いとは言えないが、学生に対する広報活動は十分に行ったと評価できる。
	改善のための提言	学際学部ゆえ多様な領域の学問を学ぶため、横断プログラムでさらに学習の幅を広げるのは学生側の負担および教育効果という点で検討の余地がある。すべての横断プログラムを推奨するのではなく、学部での学習を補完するのに有用なものに絞って推奨するという形が取れないか。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。
年度目標		①オンラインと対面の併用のなかで、学生が不利益を被ることなく効果的に学修を行えるよう努める。
達成指標		授業改善アンケートや履修者数のチェックを通して、学生が適切なかたちで学修に臨んでいるか検証する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	本年度は、対面授業の実施が予想以上に進展し、かつ、来年度は対面授業を原則とする方針が決定された中、オンライン授業の効果検証は当面重要度が低下し、執行部では来年度の方針の策定に集中した結果、教員に健康上の理由があるなどのケースに限定してオンライン授業を認めることとし、極力対面授業を復活させる方針を決めた。
	改善策	オンラインが効果的な授業の識別は、中長期的に見ると必要である。現在、進行中のカリキュラム改革の議論の中で慎重に検討する予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンライン授業から対面授業への移行はおおむね円滑に行われ、少人数授業を中心に対面授業が再開された。オンライン授業での学習効果の検証は今後の課題である。
	改善のための提言	オンラインで行う授業と対面で行う授業の区分に加え、対面授業の一部をオンライン授業で行う併用型の導入も含め、より効果的な授業形態をカリキュラム改革の中で検討する必要がある。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。
年度目標		②「基礎ゼミ」（必修）をはじめ複数コマ展開の科目について、専任・兼任教員間のコミュニケーションを密にして授業の標準化や質の保証に努める。
達成指標		各科目の取りまとめ役の専任教員を中心に、情報の共有や相談対応、振り返り等を積極的に行う。
年	教授会執行部による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

度 末 報 告	自己評価	A
	理由	本年度は、対面授業の実施比率を相当程度引き上げることができたこともあり、昨年度に比べると問題の発生自体が少なく、取りまとめ役の専任教員を中心に情報の共有や振り返りを行うことができた。
	改善策	オンラインを併用した授業内容の一層の充実、向上については、現在、カリキュラム改革の議論の中で検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	複数コマ展開の科目については、日常的な連絡・情報交換によって円滑に実施されていた。基礎ゼミの一部の回をオンライン化し、当該回については特に問題は見られず、対面授業と同等の教育効果が得られていたと考えられる。
	改善のための提言	オンライン併用型の授業の効果的な展開を図るため、学部としてのガイドラインや、各教員の裁量で設定できる範囲などについて議論が必要である。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。	
年度目標	③SAをはじめ、コロナ禍により過去2年間、学外での活動の中止を余儀なくされた体験型科目の多くについて、感染防止に努めつつ再開を目指す。	
達成指標	感染状況に対応した全学の行動方針に留意しつつ、学外での実習の再開に努める。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	SAについては入念な事前説明や危機管理マニュアルの徹底を土台に本年実施することができた。キャリア体験（国際）については次年度の再開を旨として準備が進められている。他の体験型科目においては依然としてオンラインでの実施にとどまったコースも少なくないが、体験の内実が充実したものになるよう様々な工夫を凝らした。
	改善策	カリキュラム改革の議論の中で、体験型科目における実習の内容や基準をより明確にして学習の更なる充実を図ることを目指す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	全学の行動方針に基づき、現行カリキュラムの中で実行可能な学習の準備、特に事前説明やマニュアルの徹底など、次年度からの再開に向けて十分な取り組みがなされた。
改善のための提言	体験型は本学部の強みの1つであるが、他大学にとって模倣が困難な授業ではないので、増設・新設による充実化の前に、カリキュラム改革の中では、積み上げ型教育の中での位置づけを明確化し、学部としての特長を持てるよう、中長期的な検討が必要である。	
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、教育の成果について広く発信する。	
年度目標	①学部のディプロマ・ポリシーについて、学生への周知や理解を促す。	
達成指標	ガイダンス等の機会を活用し、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ等について学生への説明を重ねる。	
年 度	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

末 報 告	理由	新入生オリエンテーションで説明した以外、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップを利用した説明の機会が乏しい。
	改善策	キャリアアドバイザー等にも積極的な活用を促す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ディプロマ・ポリシーに関しては全学のものとの対応が不十分であったことも、周知・活用の不十分さにつながったと思われる。今年度、学部ポリシーの改訂を行ったため、次年度以降での有効活用が求められる。
	改善のための提言	ディプロマ・ポリシーに沿った教育は日常の授業で実行していくものであるため、授業外のイベントの中で周知を図るよりも、各授業の節目（各年度の初回の演習など）で学生に確認させていくことが有用である。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、教育の成果について広く発信する。	
年度目標	②調査法関連科目の階梯性や学修の成果について引き続き検証する。	
達成指標	履修ガイダンス等の機会に丁寧な説明を重ねるとともに、学生へのモニタリング等を通して学修の状況を把握する。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	ガイダンス等の機会での説明に注力するとともに、カリキュラム改革において、調査法関連科目の最も基礎となるキャリア研究調査法入門のクラスを増やし1クラスの定員を減じることで、きめ細かい指導のもと、学修成果を向上させつつ、階梯的な学びの積み上げについてさらなる充実を図りつつある。
	改善策	キャリア研究調査法入門のクラス増設に伴い担当教員も増えるため、クラス間で授業内容・授業方法をすり合わせ、有機的な連携を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	調査法関連科目については、カリキュラム改革の中で改善案の検討が進んでおり、現行クラスにおいても担当者間での情報交換・連携が行われており、適切な授業運営のモニタリングが実施されている。
	改善のための提言	他の項目にも関連するが、ガイダンスが多いため、学生にとっては説明された事項をむしろ軽視することにつながっていると考えられる。調査法の実践、階梯的学習は日常の実践を通じて学生が能動的に経験して理解することが本来の形であるため、学習内容を調査法以外の授業で実践・深化させていくことが重要である。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。	
年度目標	①入試合格者に対してより積極的な働きかけを行う。	
達成指標	学部ホームページやオンライン懇談会等を工夫して、合格者への丁寧なアプローチを試みる。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	広報委員会を中心に学部紹介の動画を新規に作成して学部ホームページに掲載するとともに、合格者に対してより積極的に呼びかけを行うべく、学生サポート委員会のイニシアチブで学部教員と直接話せる合格者相談会を企画した。
	改善策	本年度の試みがどの程度の効果を上げるかを見たうえで、引き続き合格

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



		者に対して積極的なアプローチを試みていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	今年度に導入した新たな施策の効果は今後の結果を待って評価すべきものであるが、多様な媒体及び形態の活用を試み、実行した点で今年度の目標としては達成されたといえる。
	改善のための提言	施策の効果に関しては、単年度ではなく複数年度にわたる受験者・合格者・入学者の動向を見て評価し、継続・改善を検討することが望ましい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。
	年度目標	②長期的な視野に立って指定校入試の大幅な改革を行う。
	達成指標	入試担当の執行部主任を中心に、指定校入学者の追跡調査、新規指定校の選定、不芳レターの送付等を実施するとともに、指定校選定のルールを明確化し、かつ年度ごとの推移をアーカイブ化することにより、継続的な取り組みを可能にする体制を整える。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	一般入試による入学実績をもとに体系的に指定校を選定する方法を2023年度入試より導入し、首都圏、地方のバランスを考慮しつつ新規指定校を選定した。また、年度ごとの入学者の推移をアーカイブ化する仕組みもつくった。
	改善策	今後、入学実績および入学者の成績等について継続的に分析し、指定校選定方式のPCDAサイクルを展開し、随時改善を目指していくことは必要である。この点を次期執行部に適切に引き継ぐ必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	指定校選定の方法と入学者のデータ管理が体系化され、執行部のメンバーが変わっても再現性のある形で推薦入試を運営できる仕組みが整備された。
	改善のための提言	今年度に構築した仕組みを活用し、効率的かつ効果的な指定校推薦入試を運営していくことが求められる。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。
	年度目標	③アドミッション・ポリシーに対する理解を促すために、より効果的な発信方法を検討する。
	達成指標	入学希望者に向けて、学部パンフレット等を通じた広報を行うとともに、ウェブを通じた情報発信に引き続き努める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部ホームページにおいてアドミッションポリシーを公開し、本学部の求める学生の資質・能力や、多様な学生を受け入れるためのさまざまな入試経路について説明している。
	改善策	学部パンフレット等、学部ホームページ以外の媒体においてもアドミッションポリシーについて紹介することを検討していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	アドミッションポリシーの学部ホームページへの掲載により、志願者を含み広く公開されている。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	改善のための提言	学部パンフレットなど、学部単位での入試広報において広く活用していくことが望ましい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	3つの領域それぞれの専門性やバランスに留意しつつ、研究・教育における学際性のさらなる伸長に努める。
	年度目標	①学部運営に関わるさまざまな業務のさらなる効率化と平等化に努める。
	達成指標	2021年度に学部内の各種委員を大幅に統合整理した効果について検証するとともに、必要に応じてさらなる調整を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2021年度に学部各種委員の整理を行った結果、大きな問題はなく本年度の学部運営が行われた。引き続き教員の負担減を目ざして本年度も小規模な整理を行っている。
	改善策	全学委員を含め幾つかの委員については選出方法や依頼経路が曖昧なものがあるため、より円滑に委員を配置できるようさらなる工夫をしていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	委員会を削減した体制の下で学部運営上、大きな支障は発生しておらず、業務負担の軽減が適切に進められている。
	改善のための提言	質の高い授業と研究の実施が教員の主たる役割であることを念頭に、引き続き業務の効率化と適正化を進めることが望まれる。委員会の削減に加えて業務自体の見直しや、委員会組織に依存せず個別担当者での対応も導入していくのが望ましい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	3つの領域それぞれの専門性やバランスに留意しつつ、研究・教育における学際性のさらなる伸長に努める。
	年度目標	②オンラインの活用による業務の効率化に引き続き務める。
	達成指標	教授会をはじめ各種委員会の開催や情報共有、意見交換等においてオンラインをさらに活用する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	本年度も教授会は対面とオンラインを隔回で実施し大きな混乱はなかったが、対面の回が延長する傾向にあった。また各種委員会や教員へのアンケート等、オンラインを活用する機会が多かった。
	改善策	引き続きオンラインの適切な活用を推進していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	会議のオンライン化による大きな支障は見られていない。オンライン会議においても重要な議題においては活発な議論がなされていた。
	改善のための提言	教授会その他の会議について、引き続きオンラインを有効活用していくとともに、業務自体の削減・効率化による各種会議の削減・短縮を引き続き検討していくことが望まれる。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	3つの領域それぞれの専門性やバランスに留意しつつ、研究・教育における学際性のさらなる伸長に努める。
	年度目標	③大学院教育における教員負担の軽減や効率化を目ざす。
	達成指標	学部執行部と大学院執行部のあいだで引き続き意見交換を行い、人的資

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	源のより有効な配置について検討を進める。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「キャリアデザイン学研究科教員負担に関する規定」を文書として明確化した上で、4単位分の講義科目を2単位に半減し、軽減分を学部授業担当分として拠出する取り組みを行った。
	改善策	学部執行部・教授会と大学院執行部・教授会との間で引き続き協働し、ワークロードの一層の軽減・効率化を目指す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	従来、各教員の担当業務に関する状況が共有されていなかった本学部・本大学院との間で情報共有が進められ、人的資源の再配分に関する具体的な施策が進められた。
	改善のための提言	教員の科目を再配置するにあたり、数字上は表れない実質的な業務負担の増大が発生しないようにモニタリングが必要である。また、再配置に当たっては、各教員がより専門性を発揮できる配置を目指して行うことが望まれる。
評価基準		学生支援
中期目標		入口から出口までを見すえて継続的な学生支援を行い、多様な学生が意欲的に学べる環境を整備する。
年度目標		①「キャリアアップ奨励金」を、より学部の趣旨にふさわしいシステムに改善する。
達成指標		奨励金の対象項目を見直すとともに、奨励金額の傾斜配分の導入を試みる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	講座区分A(社会保険労務士、税理士等の「士業」の資格取得)に対して、1講座20万円を支給上限とする枠を設け、学部の主旨に相応しい、傾斜配分の方式の導入を実現できた。
	改善策	今後、利用実績、および、資格取得状況等を継続的に観察し、同奨励金の有効性について継続的に検証していく必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	奨励金の対象項目、奨励金額の見直し案が具体的に作成され、導入された。
	改善のための提言	今後も資格に対する社会的ニーズの変化が見込まれるため、利用実績、資格取得状況とともに、資格へのニーズも踏まえて同制度のモニタリングと見直しを継続的に行うことが望まれる。
評価基準		学生支援
中期目標		入口から出口までを見すえて継続的な学生支援を行い、多様な学生が意欲的に学べる環境を整備する。
年度目標		②外国人留学生に対してより具体的かつきめ細かな支援を工夫する。
達成指標		グローバル教育センターとも緊密に連携しつつ、国際交流委員会を中心に留学生への実効力ある学修支援を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	基礎ゼミにおいて、コロナ禍での外国人留学生の入国状況に応じた対応(ハイフレックス等)が必要になるということで、今年度は専任教員のクラスに留学生を配置し、機動的な配慮・支援の態勢を整えた。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

告	改善策	国際交流委員会を中心に、外国への留学生に対する支援とともに、日本への留学生に対する支援を一層充実させていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	今年度に入學した外国人留学生を専任教員が担当する基礎ゼミのクラスに配置したことにより、入国状況に応じた外国人留学生の円滑な受け入れを実現できた。
	改善のための提言	国際交流委員会を中心として、外国人留学生に必要な支援を必要に応じて提供・検討していくことが望ましい。
評価基準		学生支援
中期目標	入口から出口までを見すえて継続的な学生支援を行い、多様な学生が意欲的に学べる環境を整備する。	
年度目標	③キャリアアドバイザー制度をより効果的に活用する。	
達成指標	就職委員会およびキャリアアドバイザー制度運営委員会を中心に、学部独自のキャリア支援を実施する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	就職委員会の企画について参加者が少ない状況が続いている。また、相談業務も学部からの依頼による面談を除くと、活発に利用されているとは言いがたい。
	改善策	より効果的な学部独自のキャリア支援のあり方について、方法の見直し、サポート体制の構築を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	企画の参加者と相談件数の点で目標の達成度としては不十分であった。ただし、COVID19下での就職活動の変化、新卒労働市場の需給の影響もふまえて、従来型の目標値を下回ったことを改善課題と直ちにみなすことは早計なので留意が必要である。
	改善のための提言	支援の効果性の指標を再検討する必要がある。例えば相談業務に関しては、順調にいけば相談に来ないことを考えれば、相談件数自体を効果性の指標にすることは本来の支援の目的から逸脱する。
	評価基準	
中期目標	教育・研究を通して積極的に社会貢献・社会連携を行い、そのプロセスや成果を広く発信していく。	
年度目標	①より幅広く多様な学生が「学生活動サポートプログラム」を活用し、社会と連携するよう努める。	
達成指標	ゼミ単位に限らず、低学年の学生も含めより広範な学生からの応募を促す。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	第一期申請12件・第二期申請5件と、幅広い活動から積極的な申請が集まった。2020年に学生活動サポート助成の方法を変え、学生の活動を促すことを前提として申請を通すこととなったが、それが順調な申請数につながっているものと思われる。
	改善策	引き続き、趣旨がプログラムに反しない申請は通すこととし、学部外部の個人・団体と連携し、社会に貢献する社会的活動を促進していく。
	質保証委員会による点検・評価	
所見	プログラムの趣旨に反しない申請案件は採用するという方針の下、多くの申請があり、計画通りに実施できたと評価できる。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	改善のための提言	今年度は方針通りに実施したため目標は達成されたが、申請案件を選抜の要素なしに原則採用するというプログラムを学部として実施する意義は再検討の余地がある。寄付金で運営するプログラムならば整合性はあるが、学生から徴収した金銭の再分配とプログラムの趣旨の整合性に疑問の余地がある。
	評価基準	社会貢献・社会連携
	中期目標	教育・研究を通して積極的に社会貢献・社会連携を行い、そのプロセスや成果を広く発信していく。
	年度目標	②学部および大学院におけるキャリア研究の成果や、学内外での学生のさまざまな活動について、多様な媒体を通じて広く社会に発信する。
	達成指標	学部・大学院紀要のオンライン化に加え、体験学習の成果等についてもウェブ上での発信を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部紀要、学会紀要はオンライン化し、法政大学図書館のリポジトリ、および、法政大学キャリアデザイン学会のホームページの二つの媒体で公衆閲覧に供している。また、公開可能な体験学習の成果について、一部出版した。このほか、SNS等を通じて研究会の開催情報等を広める取り組みを行っている。
	改善策	学生の活動については、カリキュラム改革において体験系科目の改善が予定されているので、それらの情報発信を強化していくことが考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンラインでの学部・大学院紀要の出版、体験学習の成果の掲載は計画通りに実行されている。
	改善のための提言	学部単位での広報は情報の到達範囲に限界があるので、教員の研究成果のうち特に優れたものに関しては、全学の広報課のプレスリリースを通じての公表というルートも活用することが望ましい。
<p>【重点目標】 科目数のスリム化を視野に入れつつ、新カリキュラムの具体的な設計に向けて検討を重ねる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 教務担当の執行部主任のイニシアチブのもとで、学部として学生に身につけてほしい力を明確にしつつ、調査法科目や体験型科目など、主だった科目群ごとにカリキュラム内容を精査し、より効果的な学修の積み重ねが可能となるような新カリキュラムの構築を目指す。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 キャリアアップ奨励金の対象項目の見直しや、指定校選定のプロセスの再検討、大学院担当教員の負担の見直し等、数年来懸案となっていた学部内の諸課題に関して具体的な改善策が講じられたことは大きな前進であり、今後その効果を注視していくことにしたい。また今年度の重点目標として挙げた新カリキュラムの検討については、活発な議論を重ねることができた一方で、ともすれば話題が拡散しがちとなったため、今後は整理・集約を進めながら学習者の視点に立ったカリキュラムの具体的な構築に取り組みたい。</p>		

#### IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	現行の教育課程を、その効果を随時検証しつつ遂行するとともに、新カリキュラムへの移行が滞りなく行われるよう努める。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	科目数のスリム化を視野に入れつつ、新カリキュラムの具体的な設計を推し進める。
達成指標	前年度までの議論を土台として、教務担当の執行部主任のイニシアチブのもとで、臨時教授会なども活用しつつ、春学期中に新カリキュラムの大枠を決定し、秋学期に細部を整えることを目指す。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。
年度目標	①原則100%対面授業への移行が滞りなく実施され、学生が不利益を被ることなく効果的に学修に勤しむことができるよう努める。
達成指標	授業改善アンケートや授業形態アンケート、履修者数のチェックなどを通して、学生が適切なかたちで学修に臨んでいるか検証しつつ授業を実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	オンラインと対面それぞれのメリットを生かした授業形態の工夫をはじめ、より効果的な教育方法の実践に努める。
年度目標	②学外での実習の意義や効果を勘案しつつ、オンラインによる実習の可能性についてさらに検討を進める。
達成指標	コロナ禍により学外での活動の中止・変更等を余儀なくされてきた科目に関しては、感染防止に努めつつ全面的に再開するとともに、オンラインによる効果的な実習のあり方についても検討を進める。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、学習成果可視化システム(Halo)の活用を努める。
年度目標	①学部のディプロマ・ポリシーに基づき、適切な出口保証のシステムを構築する。
達成指標	従来の学生研究発表会に代えて、より効果的な出口保証のあり方について検討・実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部のディプロマ・ポリシーの周知およびその達成に努めるとともに、学習成果可視化システム(Halo)の活用を努める。
年度目標	②今年度から導入される学習成果可視化システム(Halo)の効果的な活用について検討する。
達成指標	学生、教員、執行部それぞれが学習成果可視化システムの利点を理解し、適宜活用していくことを目指す。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。
年度目標	①入試合格者に対して引き続き積極的な働きかけを行う。
達成指標	昨年度に続き、学部ホームページやオンライン懇談会等を工夫して合格者への丁寧なアプローチを行う。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	入学センターと緊密に連携しつつ、定員の充足および入学者の質の確保に努める。
年度目標	②中長期的な視野に立って指定校入試の改革を継続的に行う。
達成指標	昨年度に構築した指定校選定のルールに基づき、入試担当の執行部主任を中心に効果的かつ効率的な指定校推薦入試の運営に努める。
評価基準	教員・教員組織

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

中期目標	3つの領域それぞれの専門性やバランスに留意しつつ、研究・教育における学際性のさらなる伸長に努める。
年度目標	学部運営に関わるさまざまな業務のさらなる効率化と平等化に努める。
達成指標	学部内委員会の業務内容の精査や、必要に応じて他の委員会との協働もしくは個別担当者の裁量の拡大等の工夫を推し進める。
評価基準	学生支援
中期目標	入口から出口までを見すえて継続的な学生支援を行い、多様な学生が意欲的に学べる環境を整備する。
年度目標	外国人留学生をはじめ多様な入試経路による学生たちに対して、よりきめ細かな支援のあり方を工夫する。
達成指標	学習成果可視化システム等の活用や、キャリアアドバイザーによるサポートの一層の充実を図る。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	教育・研究を通して積極的に社会貢献・社会連携を行い、そのプロセスや成果を広く発信していく。
年度目標	学部シンポジウム開催やウェブサイトのさらなる充実を通して、キャリアデザインに関わる研究や学生活動の成果をより広範に発信する。
達成指標	学部シンポジウム開催やウェブサイトのさらなる充実を通して、キャリアデザインに関わる研究や学生活動の成果をより広範に発信する。
<p><b>【重点目標】</b> 科目数のスリム化を視野に入れつつ、新カリキュラムの具体的な設計を推し進める。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b> 教務担当の執行部主任のイニシアチブのもとで、教授会における議論を積み重ねていくことにより、本年度中に新カリキュラムの内容を決定し、2024年度の準備段階を経て翌25年度から運用を開始することを目指す。そのためには、学生に身につけてほしい力をより明確にするとともに、学生の履修行動の傾向等についても適宜検証しながら、時代のニーズに即した教育内容を整備し、より効果的な学修の積み重ねが可能となるようなカリキュラムの構築を目指す。</p>	

### 【大学評価総評】

キャリアデザイン学部では、教室での授業だけでなく学外での体験学習も重視され、体験型科目（通年：事前指導⇒実習⇒事後学習）を設置（今年度時点で15）し、平均20名程度からなる少人数クラスを運営し、その学習成果の可視化の面でも体験学習の報告書や成果発表などが取り纏められているということであり、それらは特徴ある教育課程・教育方法として高く評価される。そして、体験学習のオンラインによる効果的な実習のあり方についても検討を進めているということであり、その検討結果がどうなるのか興味深い。

また、2022年度大学評価結果総評の中で持続可能性を考えると早急に対応策を検討する必要があると指摘された教員の負担増という課題に対しては、引き続き学部各種委員会の業務内容の精査やその結果としての委員数の見直し、入試担当業務の整理・合理化、学部内向けの質保証・自己点検シートの記述方法の簡易化など、できるところから少しずつさらなる効率化を図っているということである。この点は、今年度の年度目標で学部運営に関わるさまざまな業務のさらなる効率化と平等化に努めるとされ、その達成指標として、学部内委員会の業務内容の精査や、必要に応じて他の委員会との協働もしくは個別担当者の裁量の拡大等の工夫を推し進めるとされており、今後の取組の進展が注目される。

### 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載されたⅡ自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認で
---	------------------------------

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

確認	きた
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

---

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。